

「へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実」
に向けての実践

水窪小学校は浜松市で最も北部にある小学校である。年々児童数が減少し、近い将来完全複式となり、複式学年別授業をせざるを得なくなる。複式学年別授業では、一人の教師が2学年の授業を同時に行うため、教師が子供たちに直接関わることができる時間が限られてしまう。2学年の授業を成立させるためには、子供自身で学習を進める力が必要である。そこで、研究主題を「自分で学び、自分たちで学び合う子供の育成」とし、少人数・複式学年別授業を通して、学ぶ力を育てていきたいと考え、昨年度から、算数科の複式学年別授業の研修も取り入れ実践を重ねてきた。

まず、算数科の授業の進め方について全校で共通理解を図った。複式授業を見据えた授業の流れを盛り込んだ学習カード「水窪っ子算数の学習の進め方」を見直し、**問題把握・課題設定**⇒**一人学び**⇒**学び合い**⇒**まとめ**⇒**振り返り**という流れで授業を進めてきた。学習カードを基に、学習リーダーが中心となって「一人学び」や「学び合い」が進められるように指導をした。どの学年も「一人学び」の時間を十分に確保し、自分の考えをノートに書くことができるようになってきた。「学び合い」では、学習リーダーを中心に、自分たちの考えを発表し合い、課題を解決するための話し合いの素地ができてきた。しかし、一人学びのための教師の支援や、少人数での話し合いの充実等にはまだまだ課題があると感じた。本年度は、算数科の授業の中での「目指す子供像」を設定し、「問題把握・課題設定」「一人学び」「学び合い」において子供たちをどのような姿へ成長させていくべきかを教員間で話し合った。また、「問題把握・課題設定」の工夫を研修の重点とし、目指す子供像の実現のために研修を重ねた。新型コロナウイルス感染症予防のために、思うように研修が進まないこともあったが、夏季休業中の校内研修で、1学期の研修をふり返り、学習カードを更に見直して2学期以降の実践や支援の工夫について話し合うことで、教員間の共通理解を図ることができた。2学期は、新しくなった「水窪っ子算数の学習の進め方」を基に、更に研修を深めて行きたい。



3・4年生複式学年別授業の様子 (R2.1)



4年生の算数科の授業の様子 (R2.7)